

アメリカの州立大学における IR 担当専門職

高野 篤子

はじめに

インスティテューショナル・リサーチ (Institutional Research, 以下 IR と略記) とは「機関調査」あるいは「機関研究」という意味であり、日本における適切な定訳は見当たらない。したがって、茨城大学の大学戦略・IR 室、東洋大学の IR 室、大正大学の質保証推進室 IR・EM センターのようにそのまま表記されることが多い。また日本語の組織名称に用いられなくても、九州大学の大学評価情報室の英訳のように Office of Institutional Research と IR が用いられることもある。IR とは「大学における諸活動に関する情報を収集・分析することで学内の改善活動を支援し、外部に対して説明責任を果たす活動」(小湊・中井 2007: 19) である。その活動の担当部署あるいは部門を総称して IR オフィスと本報告では便宜的に表記する。

日本の大学における IR オフィスは理事長・学長直轄の全学レベルの組織として位置づけられることが多い。そして、大学の組織・運営や教育・研究を自己調査分析し、質の向上にむすびつける IR 機能の強化が、FD と SD の充実とともに近年とりわけ求められているのである (2014 文部科学省)。

世界で最も早く IR の組織が立ち上げられ発展してきたアメリカ合衆国 (以下、アメリカと略記) では、IR の担い手の多くが修士号や博士号を有し、上位の職階の IR の部長は高等教育の管理運営の諸事情および統計に通ずる教員出身者、あるいは教員の身分を有する者も少なくない (2012 高野)。今後の IR の在り方に関する研究は、先進的な事例の蓄積が豊富なアメリカの IR 担当専門職を主導に世界的な連携が行われつつある (Webber and

Calderon eds. 2015). 本稿の目的は、アメリカの州立大学における IR オフィスに配属されている専門職たちへのインタビューを通して、IR オフィスの学内での位置づけ、IR 担当の役割や資質、職能開発の方法について検討し、日本の大学への示唆を得ようとするものである。

本報告は、大正大学の協定校でもあり、ハワイ州の旗艦大学であるハワイ大学マノア校を 2014 年 8 月に訪問調査した際に収集した資料および関係者へのインタビューに基づく。あわせて、ペンシルバニア州の旗艦大学であるペンステートを 2015 年 7 月に訪問調査した際に収集した資料、日本にてアメリカの州立大学の関係者から入手した情報等に基づいて論じる¹⁾。

1. ハワイの州システム

ハワイ州は 1907 年に創設されたハワイ大学の 3 大学、コミュニティ・カレッジの 7 大学、合計 10 大学からなる州立大学群システム (University of Hawaii System) を有する。10 大学の内訳は、ハワイ大学マノア校 (University of Hawaii at Manoa)、ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawaii at Hilo)、ハワイ大学ウェスト・オアフ校 (University of Hawaii at West O'ahu) の 4 年制大学 3 校と、ハワイ・コミュニティ・カレッジ (Hawai'i Community College)、ホノルル・コミュニティ・カレッジ (Honolulu Community College)、カピオラニ・コミュニティ・カレッジ (Kapi'olani Community College)、カウアイ・コミュニティ・カレッジ (Kaua'i Community College)、リーワード・コミュニティ・カレッジ (Leeward Community College)、マウイ・コミュニティ・カレッジ (Maui Community College)、ウィンドワード・コミュニティ・カレッジ (Windward Community College) の 2 年制公立短期大学の 7 大学である。10 大学を総括するのは総長 (president) であり、個別大学には学長 (chancellor) がいる。

ハワイの州システムは、総長、顧問と 8 人の副総長 (vice president) から成るトップマネジメント・チーム (senior management team) によって運営される。傘下の各大学には学長と学長室 (Office of the Chancellor)、担

当業務ごとに複数の副学長と副学長室が置かれている。各大学に IR オフィスが置かれ、少なくとも 1 人の IR 担当がいて、IR 機能をもっている²⁾。10 大学全体で、20～25 人の IR スタッフがいて、ハワイ州システム全体の会議が年に 4 回開催されている。IR の機能の果たし方は IR オフィスの規模にもより、個別大学ではアクレディテーション、プログラム・レビュー等の仕事にほとんどの時間を費やしているものと思われる。本稿では、ハワイ大学マノア校内にある副総長室の IR オフィス、ハワイ大学マノア校の教学担当副学長室の IR オフィス、同校の教学担当副学長室の評価オフィス、の機能、役割、担当専門職の職能開発について見ていく。

2. ハワイ州立大学システムの IR

ハワイ大学マノア校のキャンパスにはハワイの州立大学全体の IR 分析室 (Institutional Research and Analysis Office, 以下 IRAO と表記) がある。IRAO の正式名称は教学企画政策担当副総長室 (Office of the Vice President for Academic Planning and Policy) である³⁾。この IR 分析室は、ディレクター 1 人、秘書 1 人、アナリスト 4 人、IT スペシャリスト 3 人の計 9 人のスタッフがおり、IR としてはかなり大きい組織である。アナリストは分析し、IT スペシャリストはシステムを維持管理する。最近はデータ・システムがすべてオンラインであるため、IT 担当が必要であり、10 年前にこの IR 分析室は現在のような規模となった⁴⁾。長期間かけて情報を共有し透明化し、広報の部門とも連携している。IRAO の上級アナリストの Mr.Mongold は大学の学士課程では英語教育を専攻し、この IR 分析室に 24 年間務めている。彼の部下にあたるアナリストの Ms. Yokogawa は学士課程では経営学を専攻し、企業で資金の管理の仕事に携わり、現在の職へ転職し、1 年強が過ぎた。もう一人別の男性のアナリストは学士課程では地理学、都市工学を専攻、教育現場でファシリテーターの仕事をしていた。Mr.Mongold によると、もう一人別のアナリストの専攻は経済学で、IRAO は全員が異なる専門・専攻のミックスグループであるが、IR の世界では総じて統計学の専門・専攻の出

身者が多いとのことである。ハワイ大学では、IRAOのディレクターは教員ではなく、職員（executive managerial）の身分である。前のディレクターは経済学で哲学博士号（以下、PhDと表記）を持っていた。ハワイの公立の2年制短期大学であるコミュニティ・カレッジのIR担当者には教員出身者もいる。教員出身の方が教員から信頼され、一目おかれるからであろう。つまり、IRAOのIRディレクターも教員の身分ではないが、博士号や教育・研究歴を有している専門職ということになる。

IRAOは総長の戦略的な取り組み事項を整理し公表する等、州システム全体のデータを取り扱う⁵⁾。IRの仕事は基本的に細かい仕事（detail oriented）である。総長や副総長はシステムレベルの意思決定や政策展開を行うため、特定の課題を持ってIR分析室に来る。かつては学生のデータ、就学者数や人口動態だけ見に来たが、現在では資金の配分、雇用、施設等に関する多様なデータを求めて来る。時には理事会からの問い合わせもある。戦略的な計画を立てるのにデータが必要なのである。政策を策定するのは総長や副総長であり、IR分析室のスタッフは支援するだけである。したがって、正確かつ迅速にデータを示すことが求められる。またIPED等の連邦政府関連機関には毎年必ずデータを提供しなければならないが、ハワイ州政府にはデータをあまり提供してはいない⁶⁾。

IR担当専門職の職能開発には、IR協会（Association for Institutional Research, 以下、AIRと表記）や地域のIR専門職団体を活用する。毎年2000人が参加するAIRの年次大会への参加費や交通費等は大学側に支援してもらえる。あわせてハワイ大学の授業に参加することも認められている。IRAOのアナリストのMs.Yokogawaは経営学修士号（以下、MBAと表記）を取得するため、教育財政の科目を履修中であるが、ディレクター、すなわち大学側が支援してくれている。さらにハワイ大学には大学院に高等教育を専門・専攻とする修士課程・博士課程がある⁷⁾。高等教育論ではなく、Ms.Yokogawaのように経営学を学びにビジネススクールに行く人もいるが、その場合どちらかという一般的な経営学しか学べない可能性がある。

大学院課程の他に、IRにはフロリダ大学（University of Florida）のようにサーティフィケート・プログラムが数多く提供されている。統計学や数学

ができることと、インタビュー・スキルがあることが IR の職務に就くには有利であろう。コミュニケーション能力は重要であるが、大学経営幹部たちに提言できるかどうかは人間関係の問題なので、注意が必要である。総じて教員は強い。なぜなら管理されていないので `they are not governed.’

長年 IR の仕事をしてきた Mr.Mongold は、IR を大学経営幹部 (executive leadership) への王道ではないと考えている。大学経営の中枢を目指すのなら、教員の道、すなわち PhD 取得後にテニユア (終身在職権) を得て、ディーン、ディレクター、副学長 (vice president) になる経路を辿るのがよい。IR は職員のポジションであり、ディレクターがその中で最上位のポジションなのである。

3. ハワイ大学マノア校の IR

ハワイ大学マノア校には副学長が 4 人いる。学務担当、研究担当、学生担当、管理・財務・業務担当に分かれている。学務担当副学長室 (Office of the Vice Chancellor for Academic Affairs) には副学長 1 人のもとに 8 人のスタッフが配置されている。その学務担当副学長室の下部組織の 1 つがマノア IR 室 (Manoa Institutional Research Office, 以下 MIRO と表記) である⁸⁾。MIRO はディレクター、アナリスト、IT スペシャリストが各 1 名、計 3 名で構成されている。ディレクターの Dr. Zhnag は学士課程でジャーナリズムを学び文学士 (BA)、修士課程で心理測定学と経営学を学び、理学修士号 (MS) と MBA、ウィスコンシン州立大学マディソン校の博士課程で教育的リーダーシップや政策分析を学び、PhD を取得している。2005 年より IR 業務に携わり、2012 年に着任したハワイ大学は 3 つ目の職場である。ディレクターは MIRO を管轄し、原則として学務担当副学長に報告する。アナリストの Ms. Kelly Jung-ts Lin はハワイ大学マノア校の大学院で言語学を専攻し、現在は博士論文を執筆中である。IT スペシャリストの Mr. David Iannucci はコンピュータ科学で理学修士号を持ち、データの加工や編集を行う。

MIRO では、IPED, College Navigateor, ACT, College Board, NSSE, CERP,

WASC等の政府やアクレディテーション団体への必要なデータの集計・報告の他に、Princeton Review, Peterson's Guide, US News & World Report, 上海交通大学, Tomson Reuters, QS Quacquarelli Symondsといったランキングに関する学内の情報を収集し、提供を行う⁹⁾。基本的にMIROは、IRAO等の学内の他部署からデータをダウンロードし、卒業生調査や寮の調査等に備える。必要なものに合わせてデータを集め加工するが、IRAO等がデータをもっていないければ、データセットをつくる。例えば、継続率、学位取得率等のデータベースはMIROが構築しなければならない。目下のところ、10年に1回のアクレディテーションの暫定的な評価が次年度に行われるため、必要なデータを集め備えることで忙しい。MIROは、管理運営の視点からデータを整え、理事、副学長(vice chancellor)やディーン(dean)へ報告する。エグゼクティブたちの質問が適切でない場合、データを間違えて使用する場合が生じないように、IRの人々はコミュニケーションスキルが大事になる。

IRに携わるのは戦略を計画する部署であるが、学生の情報や教学に関するデータを持っているのは学生の記録を管理する部署である。アメリカ合衆国の大学におけるIR機能は元来、学籍を管理する部署(Registrar's Office)が有する。学生は多様化しているので、データも複雑化する。データをニーズにもとづいて加工し操作しなければならない。コースレベル、マーケティング、同窓生等、様々なデータを分析する。ただし、部局・部門によってベンチマークや要望は異なるので、関係者と交渉し、バランスを取らなければならない。レジストラはデータを集め、IT担当は数字をのせるだけであり、IR室は素データを料理し、見た目をよくしなければならない。アナリストは数字の正確さにこだわるが、ディレクターは数字がパワーを持つことを分かっており、ストーリーを描くことが求められる。

IRには、民間の製薬会社やマーケティング会社から転職してくる人もいる。最近のIR担当は、教育的リーダーシップ、統計学、教育心理学を専攻した人たちが多く、特別な領域になってきた。IRは新しい学識が必要とされる分野で、専門職として成功するには対人能力等いろいろな能力が要求される。研究業績をあげて、教員の道に進む人、あるいはコンサルタントに

なる人もいる。かつて IR 担当者は学籍担当事務官になるくらいであったが、現在ではディーンレベル、エグゼクティブ・バイスチャンセラーになる者も出現している。中には学長になる人もおり、専門職のコミュニティが出来上がりつつある。

職能開発は webinar やビデオを見て学ぶ。ディレクターの Dr. Zhnag は大学計画立案担当者の会 (Society for College and University Planners, 以下 SCUP と表記) のセミナーの修了生である。セミナーの SCUP 1 は 1 日、SCUP 2 は少し長期にわたり、SCUP 3 は MBA プログラムのようなケーススタディを実施する。状況や課題を検討し、参加者が互いにサポートし合う。参加費用は数年前に 2000 ～ 3000 ドルほどであった。ライティング・スキル、コミュニケーションスキル、戦略的な調査のスキルを身に付ける。大学の効率的な経営や大学の意思決定にデータを使うようになっており、中上級レベルの戦略的計画担当者が参加している。IR に関する会議の参加者は通常大学側が参加費等を負担する。会議の場には、多くの関連会社・事業者もいる。しかし、参加者たちは学術的な話はするが、製品の話はしない。セミナーや会議の他に、職能開発の場として大学院課程レベルの多くのサーティフィケート・プログラムができています。

4. ハワイ大学マノア校の Assessment Office

ハワイ大学マノア校のアセスメント・オフィス (Assessment Office, 以下、評価室と表記) は、MIRO と同じく学務担当副学長室の下部組織の 1 つである。MIRO のすぐ隣にあり、博士号をもつ 2 人の専門職が配置されている¹⁰⁾。Assistant Specialist の Dr. Yao Zhang Hill の専門は第二言語学習、言語テスト、プログラム評価であり、Associate Specialist の Dr. Monica Stitt-Bergh の専門は教育心理学である。二人とも Specialist Type Faculty として教員の肩書・身分をもつ専門職であり、教えるではないが、教えることは楽しいと考えており、機会があれば一般的な教員、すなわち普通の教育研究職になりたいそうである。

このオフィスの第1の目的は、学生や教員とともに動き、教育プログラムを改善することである。第2の目的は、調査や評価のツールを改善することである。そのために教員を対象としたワークショップの開催、学生・教員・職員を対象としたイベントの開催、優れた実践例の紹介や案内を行っている。例えば、一般教育（General education）の236科目に対して、アウトカムの評価を支援したり、コンサルティングをしたりしている。教員とコミュニケーションをよくとり、プログラム評価報告を通して、教員のニーズをつかみ、ワークショップを計画・開催するのである。評価室のホームページに、研究論文の書き方、ループリックバンクというループリックの事例集、カリキュラムマップ、ポートフォリオなど様々なツールを掲載することにより、教員の職能の開発者（professional developer）や世話役（facilitator）としての役割を果たす。

これまでに二人は、各教員、各科目、各学生が何をしているのか、カリキュラムに一貫性がみられなかったので、カリキュラムマップの作成支援に取り組み、マップを見ることによって、学生の経験、学生の成長を首尾一貫して促せるようにした。ただし、基本的に教員に強制はしないし、懲罰を課すようなことは決してしない。教員が年間の評価レポートを提出しない場合は、ディーンや学長が教員と話し合う。評価室の二人は、管理運営側と教員側との間、トップとボトムの間立つ専門職なのである。

職能開発としては、全米の関連する会議やワークショップに参加する。「トレイナー・トレイナー」と呼んでいるが、所属大学を超えて、互いに教え合い、助け合うことにより、ネットワークを形成し、知識や能力を維持向上させている。

5. 他の州立大学のIR

八

本節では、別の州立大学、すなわちペンシバニア州、テキサス州、ミネソタ州の大学のIRについて比較検討する。

ペンシバニア州にある州立大学のペンステート（PennState）の計画・

評価室 (Office of Planning and Institutional Assessment, 以下 OPIA と表記) は、行政担当兼教学担当副学長室 (Office of Executive Vice President and Provost) の下部組織である。OPIA は 1 名の Executive Director, 5 名の専門職 (Professional Staff), 2 名の補助職 (Support Staff) の 7 名のスタッフで構成されている¹¹⁾。そのうちの 2 名が博士号, 2 名が修士号を有している。7 名に加えて, 大学院生がインターンとして配属される場合もある。こちらの IR スタッフの専門・専攻は, 歴史学, 経済学, 英文学等, 実に様々である。暫定的なエグゼクティブ・ディレクターを務める Dr. Betty Harper によると, アメリカの IR 担当は専門職であり, 基本的には教員のポジションではない。教えることが主な役割ではないのである。Dr. Harper はもともとデータ中心かつ政治的な野生生物学や人類生態学の専門・専攻であったが, ペンステートにて高等教育の専門・専攻で PhD を取得している。Dr. Harper の前職は, ペンステートの学生支援の評価 (Student Affairs Research and Assessment) 部門のディレクターである。ペンステートには全米でトップクラスの高等教育を専門・専攻とする大学院課程があり, さらに IR の専門職を育成するサーティフィケート・プログラムも有する。そのサーティフィケート・プログラムの創設者は IR 研究の第一人者でもある J. Fredricks Volkwein 名誉教授である。同様に, ペンステートの高等教育研究センターの Patrick T. Terenzini 名誉教授も著名であり, ペンステートは 40 年にわたり全米における IR 研究でリーダーの役割を果たしてきた大学の 1 つともいえよう。

OPIA の目的は, 同大学が有する資源の効果的かつ効率的な活用を促進するため, 全学レベルの意思決定や戦略計画策定に寄与する情報やデータを提供することである。学内の各部局やユニット, また個人の特定のニーズに応えるために, 学内にてコンサルティング, コーチング等を含むワークショップを実施している。学内の多くの部門との連携が問われるが, OPIA が単独ですべてのデータを有しているわけではなく, ペンステートのデータウェアハウスから素データを入手する形式となっている。一部, ウェアハウスに格納されていないデータについては, 担当部局との調整の上でデータを入手する。

OPIA スタッフの職能開発の場と方法は, AIR やビクテン¹²⁾ のコンソーシアムである CIC 等の大会参加, および会議での情報交換である。昨今の

アメリカは全般的に州財政における高等教育予算が減少し続けており、機関に割り当てられた予算や財務状況と、戦略計画との間でどのように折り合いをつけるかが最大の問題である。そうした中でOPIAは授業料収入の減少、福利厚生・施設設備の改善、競争力ある教員獲得・雇用のための人件費増加、戦略的予算配分に関して、学内における過去の取組や委員会の判断を参考にしつつ、予算と計画の調整を支援する。

続いて、テキサス州立大学を見てみる。前ハワイ大学の教学担当副総長(Executive Vice President for Academic Affairs/Provost)のDr. Linda Johnsrudは、2014年よりテキサス州の州立大学群システムの教学担当副総長(Associate Vice Chancellor for Academic Affairs for the University of Texas System)となっている。そのテキサス州のシステムは、8大学と6センター(医学系のキャンパス)を有する。テキサス州のシステムの戦略的イニシアチブ室(Office of Strategic Initiatives for the University of Texas System, 以下OSIと表記)の副総長(Vice Chancellor)が、Dr. Stephanie A. Bond Huieである¹³⁾。OSIのスタッフは総勢18人である。ハワイ大学と同様に、各大学にもIRスタッフがいる。

副総長であるDr. Huieは、テキサス大学オースティン校で過ごし、文化人類学で学士号、社会学で修士号と博士等を取得している。またハーバード大学(Harvard University's Institute for Education Management)で3週間の集中コースとSCUPのサーティフィケート・プログラムにて高等教育の企画、戦略的な企画について学び、修了している。管轄するOSIでは、新しい人が入職したら、“buddy system”とあって、新人を先輩に張り付けて、OJTで学んでもらうことを行っている。もとよりスタッフは、統計学、数学、コンピュータプログラミング、SASに通じている人を採用する。IRの職として最上位の要職に就くDr. Huieは、研究のバックグラウンドをもつ者、適切な質問を投げかけ分析できる者、データを集めて示すだけでなく、統計処理ができ、物事の因果関係を示せる者が望ましいIR専門職像とする。スタッフとは週1回の打ち合わせを行い、スタッフの評価は年に1回、ルーブリックを用いて行う。

最後に、ミネソタ州のウィノナ州立大学(Winona State University)を

見てみる。計画・評価・調査室 (Institutional Planning, Assessment and Research, 以下 IPAR と表記) は、ディレクター 1 人とデータベースの IT スペシャリスト 3 人で構成されている。教学担当副学長 (Provost and Vice President for Academic Affairs) が管轄する組織の 1 つである。ディレクターの Dr. Eri Fujieda は社会学で PhD を取得している¹⁴⁾。Dr. Fujieda のような統括ディレクターレベルになると、データベースを使い、データを抽出する技術的な能力に加えて、データを読む力、部局と話をし、大学に必要なニーズを把握する力が必要となる。もちろん高等教育を知らないと職務を遂行できない。ウィノナ州立大学では、データベースがほしい、特定のデータをいつでも見れるようにしてほしい、という学内からの要望があり、IT を重視し、予算が多く配分されている。IPAR は IT 担当が 3 名いるだけの IR オフィスである。Dr. Fujieda は、データを出すだけの便利屋になってしまうと、最終的に意見が合わなくなり、全学的な調整がしにくくなる点に留意し、職務を遂行している。

おわりに

本稿では、2014 年度から 2015 年度にかけて調査してきたアメリカの州立大学における IR 専門職について、ハワイ大学を中心に検討してきた。Volkwein (2012) が、アメリカの大学の IR オフィスの態様を、Y 軸に比較的小規模か大規模か、X 軸に中央集権的か分権的かで、次の図のように描いている。手工業型 (Craft Structure) は、1～2 人のスタッフがルーティンの仕事、数字の処理をするだけのような小規模な大学である。特別委員会型 (Adhocracy) は 2～3 人のスタッフがおおり、中規模の大学でよく見られる。続いて専門職官僚型 (Professional Bureaucracy) は集権的な IR オフィスで 4 人以上のスタッフがおおり、複数のレベルの専門職が配置されている大学である。精緻贅沢型 (Elaborate Profusion) は研究大学に共通して見られる形態で、自律的な文化を有し、様々な組織単位で IR スタッフがいる。

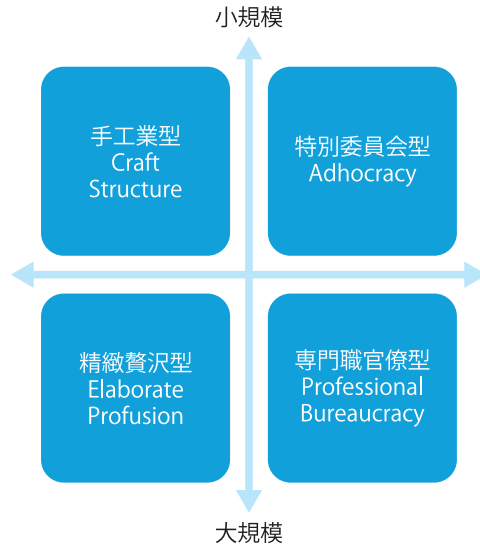


図 IRオフィスの置かれている環境

本稿で見てきたハワイ大学やペンステートは比較的規模が大きく、第三象限の精緻贅沢型に分類されると思われる。そして、アメリカのIRの専門職たちのバックグラウンドは、とりわけ学士課程の専門・専攻においては、経営学、経済学、教育学、歴史学、英文学、生態学、人類学等と様々であり、初職は必ずしもIRの仕事とは限らないようである。大学院課程の専門・専攻も、社会学、心理学、統計学、コンピュータ科学、経営学、教育学と様々な領域を学んでおり、バックグラウンドとなる専門・専攻は様々な専門職と言えよう。このことはむしろアメリカの大学院課程では専門的知識のみならず汎用的なスキルを獲得できることの証左でもある。

キャリア形成は、アナリストとして経験を積み、上級アナリスト、ディレクターと昇進していくのが一般的のようである。ディレクターレベル以上のポジションに就くには、高等教育の諸事情に精通し、関係者とコミュニケーションが取れ、データを収集するだけでなく、データを読み解く力量が求められる。換言すれば、IRの上位の職階の専門職たちは、教員と同様に博士

号をもち、教えこそしないが、教員と同等の研究能力を持ち合わせている者が多い。ハワイ大学の評価室の教学 IR を扱う専門職の二人は教員の身分であったが、IR 担当専門職のポストは、基本的に教員のポジションではないようである。また IR 担当専門職としての職能開発には、社会学や教育学等の大学院課程に加えて、AIR や SCUP といった専門職団体の研修プログラムを活用している。いずれの場合も所属大学から参加費の支給といった何らかの支援がなされており、IR 担当の専門性を高め、ネットワークつくることが、自大学の益になると捉えられているようである。IR の活動内容は、義務付けられている連邦政府への報告やアクレディテーションをはじめとする学内外への説明責任の他に、アウトカム・アセスメント等の教育の改善、あるいは戦略的計画と予算配分等の調整や意思決定の支援等、大学によって異なる。IR オフィスの長が報告する直属の上司、すなわち上層部が IR の役割をどのように捉えているかによるのである。

それでは日本の大学の IR オフィスと IR の専門職はどうあるべきなのだろうか。日本の大学では IR オフィスは全学レベルの組織に位置付けられていることが多く、IR 担当はたいてい教員のようなものである。教員として採用されているため、大学院の修士課程や博士課程を修了済みの人が多い。この場合、IR の職務に専念するために、アメリカの州立大学の IR 担当専門職と同様に教育負担は免除、あるいは低く抑えられている。しかし、専任教員とはいえ任期がついていたり、人数も 1～2 名と少なかったりする。近年では、IR のコンソーシアムやネットワークが形成され、大学横断的により洗練された IR の方法や IR の担当者向けの研修が行われつつある。大学院課程で汎用的なスキルを身に付けている IR 担当者にとって、こうした研修で職能を開発していくことは即効性が高いと思われる。一方で、大学卒業後に大学職員となり、ジョブローテーションにより職能開発をしてきた IR 担当者にとっては、こうした研修に加えて、大学院課程にて学ぶことも、職能開発の場として相応しいであろう。

本稿で取り上げたアメリカの大学の IR 専門職たちは、高等教育の諸事情の把握、自大学の諸事情の把握、そして教職員に寄り添う姿勢といった、高度な専門的スキル・能力と専門職としての倫理や誠実さを持ち合わせていた。

これらの能力・スキル・態度は、OJT と Off-JT によって身に付けていくしかない。近い将来、日本の大学においても教員もしくは職員から IR の専門職がさらに出現してくると思われるが、何よりも肝要なことはこうした専門職を大学の上層部（執行部）が専門職として遇し、使いこなすことであろう。

日本では大学ポートレートが導入されているが、本報告におけるハワイ大学等の IR 関係者は、アメリカ国内の Voluntary System of Accountability (VSA) のカレッジ・ポートレート (College Portrait) については知らないとのことであった。また AIR は日本においても有名で、年次大会に参加する IR 関係者も増加しているが、アメリカの IR 関係者に高く評価されている SCUP についてはほとんど知られていない。私立大学における IR の組織および内容や方法、専門職の社会的地位向上と職能開発を行う SCUP の活動の把握については今後の研究課題としたい。

註

- 1) 各大学のウェブサイトの情報も参考にしている。
- 2) ハワイ大学の副総長直轄の IR 分析室の上級アナリストの Mr. David J. Mongold は IR オフィスのことを、“production shop” と例えて呼んでいる。“shop” とは “house” という意味である。
- 3) Mr. David J. Mongold, Senior Analyst, Office of the Vice President for Academic Planning and Policy, Ms. Lauren Yokogawa, Institutional Research Analyst, Institutional Research and Analysis Office, 男性のアナリストの計 3 名にインタビュー (2014 年 8 月 5 日)。
- 4) IR のスタッフを増やしたいときは、学内の人事 (HR) に申請をする。
- 5) 例えば “Hawai'i Graduation Initiative” と呼ばれるハワイ州の 10 大学の卒業生数を 2015 年までに 25% 増加させることに取り組んでおり、各大学の取り組み状況を比較したデータを公表している。
- 6) IPED とは Integrated Postsecondary Education Data System (中等後教育統合データシステム) の略である。
- 7) 前の教学担当副総長 (Executive Vice President for Academic Affairs/Provost) の Dr. Linda Johnsrud は高等教育の大学院で教員として教え

ていた。

- 8) Dr. Yang Zhang, Director, Manoa Institutional Research Office にインタビュー (2014年8月5日)。
- 9) MIRO は、ハワイ大学マノア校全体に関する IR を担っており、10年に1回のアクレディテーションにも対応している College Portrait のことは IRAO 同様に知らないとのことであった。
- 10) Dr. Yao Zhang Hill, Assistant Specialist, Assessment Office と Dr. Monica Stitt-Bergh, Associate Specialist, Assessment Office にインタビュー (2014年8月6日)。Librarian やアドバイザーなどは specialist type faculty。Instruction faculty とは異なる。
- 11) Dr. Betty Harper, Interim Executive Director, Office of Planning and Institutional Assessment にインタビュー (2015年7月31日)。東京大学の福留東土准教授のご厚意による。感謝の意を表したい。
- 12) ビックテンとはアメリカの中西部の大学競技連盟のことを指す。加盟校は、オハイオ・ステイト、インディアナ、イリノイ、パーデュー、アイオワ、ミネソタ、ウィスコンシン、ミシガン・ステイト、ノースウェスタン、ミシガン、ペンシルバニア・ステート (ペンステート) の11大学。
- 13) Dr. Stephanie A. Bond Huie, Vice Chancellor, Office of Strategic Initiatives for the University of Texas System。2014年2月22日に大正大学にて開催された EMIR 勉強会のゲスト講師。
- 14) Dr. Eri Fujieda (藤枝エリ) ,Director, Institutional Planning, Assessment and Research, Winona State University。2014年7月12日に東洋大学にて開催された東洋大学 IR 室設立記念国際シンポジウムのゲスト講師。

参考文献

東京大学, 2014, 『平成 24-25 年度文部科学省大学改革推進委託事業 大学における IR (インスティテューショナル・リサーチ) 現状と在り方に関する調査研究 報告書』

小湊卓夫・中井俊樹, 2007, 「国立大学法人におけるインスティテューショナル・リサーチ組織の特質と課題」『大学評価・学位研究』5: 19-34。

文部科学省，2014，中央教育審議会大学分科会「大学のガバナンス改革の
推進について（審議まとめ）」平成 26 年 2 月 12 日。

高野篤子，2012，『アメリカ大学管理運営職の養成』東信堂。

Webber, Karen L. and Calderon, Angel J. eds. 2015, *Institutional Research
and Planning in Higher Education*, New York: Routledge.

Volkwein, J. Fredericks, 2008, “The Foundations and Evolution of
Institutional Research,” *New Direction For Higher Education*, 141:5-20.

* 本研究は日本学術振興会 JSPS 科研費（基盤 C）15K04376 「大学の教学
部門を支える専門職に関する調査研究」（研究代表者 高野篤子）の助成を
受けて進められたものです。